

II. 海外経済

		2019年1月	2019年2月
世界経済		世界の景気は、 <u>一部に弱さがみられるものの</u> 、全体としては <u>緩やかに回復している</u> 。先行きについては、 <u>緩やかな回復が続くことが期待される</u> 。ただし、通商問題の動向、中国経済の先行き、政策に関する不確実性、金融資本市場の変動等によるリスクに留意する必要がある。	世界の景気は、 <u>アジア及びヨーロッパにおいては弱さがみられるものの</u> 、全体としては <u>緩やかに回復している</u> 。先行きについては、 <u>全体としては緩やかな回復が続くことが期待される</u> 。ただし、通商問題の動向、中国経済の先行き、政策に関する不確実性、金融資本市場の変動等によるリスクに留意する必要がある。
アメリカ		アメリカでは、景気は着実に回復が続いている。先行きについては、 <u>着実に回復が続くと見込まれる</u> 。ただし、通商問題の動向及び影響、今後の政策の動向及び影響、金融資本市場の変動の影響等に留意する必要がある。	アメリカでは、景気は着実に回復が続いている。先行きについては、 <u>着実に回復が続くと見込まれる</u> 。ただし、通商問題の動向及び影響、今後の政策の動向及び影響、金融資本市場の変動の影響等に留意する必要がある。
アジア地域	中国	中国では、景気は <u>緩やかに減速している</u> 。先行きについては、当面は <u>緩やかな減速が続くことが見込まれる</u> が、各種政策効果が次第に発現することが期待される。ただし、通商問題の動向及び影響、過剰債務問題への対応、金融資本市場の変動の影響等によっては、景気が下振れするリスクがある。	中国では、景気は <u>緩やかに減速している</u> 。先行きについては、当面は <u>緩やかな減速が続くことが見込まれる</u> が、各種政策効果が次第に発現することが期待される。ただし、通商問題の動向及び影響、過剰債務問題への対応、金融資本市場の変動の影響等によっては、景気が下振れするリスクがある。
	その他アジア	韓国では、景気は <u>緩やかに回復している</u> が、弱い動きもみられる。台湾では、景気は <u>緩やかに回復している</u> 。インドネシアでは、景気は <u>緩やかに回復している</u> 。タイでは、景気は <u>緩やかに回復している</u> が、一部に弱い動きもみられる。インドでは、景気は回復している。	韓国では、景気は <u>緩やかに回復している</u> が、弱い動きもみられる。台湾では、景気は <u>このところ弱めの回復となっている</u> 。インドネシアでは、景気は <u>緩やかに回復している</u> 。タイでは、景気は <u>緩やかに回復している</u> が、一部に弱い動きもみられる。インドでは、景気は回復している。
ヨーロッパ地域	ユーロ圏	ユーロ圏では、景気は <u>緩やかに回復している</u> 。ドイツでは、景気は <u>緩やかに回復している</u> 。先行きについては、 <u>回復が緩やかになること</u> が見込まれる。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響、政策に関する不確実性の影響等によっては、景気が下振れするリスクがある。	ユーロ圏では、景気は <u>一部に弱さがみられるものの</u> 、 <u>緩やかに回復している</u> 。ドイツでは、景気は <u>このところ足踏み状態にある</u> 。先行きについては、 <u>基調としては緩やかな回復傾向で推移することが期待される</u> 。ただし、通商問題の動向が世界経済に与える影響、政策に関する不確実性の影響等によっては、景気が下振れするリスクがある。
	英国	英国では、 <u>景気回復は緩やかになっている</u> 。先行きについては、 <u>EU離脱問題の長期化に伴う不透明感による影響から、回復がさらに緩やかになることが見込まれる</u> 。	英国では、 <u>景気は弱い回復となっている</u> 。先行きについては、 <u>弱い回復が続くと見込まれる</u> 。ただし、 <u>EU離脱問題の動向によっては、景気が下振れするリスクがある</u> 。

(注) 下線部は先月から変更した部分。